



第1学年「ひきざん」横島 睦 教諭

減加法、減減法の2種類のブロックのとり方がありますが、どちらも繰り下がりのある引き算の計算方法であるという統合的な見方ができること、2種類の計算方法でよりよいものを選択できる力を付けること、これらを児童に付けたい力として設定。本単元の導入にあたる本時では、2種類の方法を引きだし、共通点に目を向けさせることでどちらもくり下がりがある引き算の計算方法だと気付かせていきたいという提案でした。



「付けたい力にあった単元の構成であったか」「既習と未習の学習をうまくつなげる授業展開であったか」について協議されました。“10のまとまりをくずす”というまとまりにつなげるために、板書やブロック操作で10のまとまりをくずす考えを残す必要があるという意見が出されました。



単元づくりの勘どころ～見方・考え方を鍛えるプロセスを描く～

本時は、数学的活動の(工) 数学的に表現し伝え合う活動、問題解決の過程や結果を具体物や図などを用いて表現する活動にあたる。数量の関係に着目すること(12-3では、12の2と3に着目するという見方)と10の束をくずすという繰り下がりアイデア(考え方)ができることが重要。そのために、「くり上がりのたし算」で、被加数分解・加数分解を扱ったときの10の束をつくるというアイデアから同じような説明ができるように(見方・考え方)を鍛える過程を考えておく必要がある。

齊藤一弥
学力向上総括
専門官による
指導板書



授業者の声

本単元「ひきざん」は、「3つの数の計算」や「くり上がりのあるたし算」での学びをどれだけつないでいけるかが重要になってくる。各単元でどのような力を付けたいのかを明確にしながら学習を深めていきたい。

参会者の声

子どもの操作の裏側にある知恵を教師が見抜き、板書上で全員で共有できる力を付けたいと強く感じました。本時の展開を考えるだけでなく、単元を通して日々の学びで、自分の課題を解決する力、土台を培えるように授業づくりを行っていきたいと思いました。【中村南小 山本紗矢 教諭】

次回、窪川小学校授業研究会は、

12月3日(月)

13:50~16:45

です。たくさんのご参加お待ちしております!

